

資 料

## 看護大学生の基礎看護学実習前後の自己効力感と達成動機の変化

菊地由美\*・長澤清隆\*・安藤郁子\*

### Changes in self-efficacy and achievement motivation before and after basic nursing practice for nursing college students

Yumi KIKUCHI\*, Kiyotaka NAGASAWA\*, Ikuko ANDO\*

#### 抄録

本調査の目的は基礎看護学実習前・後の自己効力感と達成動機を調査し、その変化を明らかにすることである。A 大学看護学部1年次基礎看護学実習Ⅰの履修学生を対象に、2021年2月24日～3月20日の期間にGSEのGoogle Formsを用いて質問紙調査を行った。質問項目には各23項目で構成された特性的自己効力感および達成動機測定尺度を用いた。回答が得られた66名（有効回答率74.2%）を分析対象とした結果、実習前に比べ実習後の特性的自己効力感は、上昇傾向が認められたが、達成動機は有意差が認められなかった。特性的自己効力感の下位項目「18. 人の集まりの中では、上手く振る舞えない」、自己充實的達成動機の下位項目「1. いつも何か目標を持っていたい」「3. 決められた仕事の中でも個性をいかしてやりたい」「6. ちょっとした工夫をすることが好きだ」、競争的達成動機の下位項目「2. ものごとは他の人よりうまくやりたい」で有意差が認められた。

キーワード：基礎看護学実習，自己効力感，達成動機

Key words：Basic Nursing Practice, Self-Efficacy, motivation for achievement

#### I. 緒言

看護大学生にとって臨地実習（以下実習）は、机上学習や技術演習での学びを統合し、医療従事者としての素地を培い成長する大切な機会である。しかし、学習途上の低学年の学生にとって、実習での学習は、慣れない環境で様々な年代や多様な社会的背景を持つ対象と対人関係を構築しながら、学習したばかりの援助を実施しなければならないため、「頑張りたい」という気持ちと「不安」や「自信のなさ」など、相反する複雑な思いを持つ者も多い。

特に大学1年生は、高校までの受動型から能動型の学習姿勢へのシフトが求められるが、まだその姿勢が十分に培われていない時期である。若者の特徴として、SNSを中心とした人とのつながりを好み、そのコミュニケーションスキルは過度に効率性を求め、反射的・断片的なコミュニケーションを繰り返す（玉木，2017）といった直接的な対面型コミュニケーション能力の低下があげられる。従って、看護学生に求められる能力と最近の若者の特性とのギャップが大きくなっている中、現代の看護学生に求めら

\*駒沢女子大学 看護学部 看護学科

れる能力はより高度になってきていると考えられる（玉木，2017）。

2020年4月以降に入学した学生は、新型コロナウイルスの流行により、リモートによる視聴覚教材中心の学習を余儀なくされた。看護技術を学ぶ演習は、画面越しの見学やDVD視聴などとなり、仲間と切磋琢磨しながら練習を繰り返し、経験を積み上げる機会を得ること、対面での交流による仲間づくり、教員と関係性を築く機会などがもてない状況であった。

基礎看護学における演習の効果の1つとして、演習前よりも演習後の自己効力感が高くなることを示す報告が複数ある（遠藤，1993；松永，2008；石川，2016；稲山ら，2018）。

自己効力感とは、行動を遂行する事が出来る自分の可能性の認識であり、①代理経験、②遂行行動の達成、③言語的説得、④生理的・情緒的状態により、影響を受ける（Bandura，1979）。つまり、演習での実体験により、自らが挑戦すべき新しい技術に取り組み、遂行行動を達成することによる「成功体験」、仲間とのディスカッションを通じた「言語的説得」や「代理経験」を積み重ねることで、自己効力感が形成され、実習に臨む事になる。しかし、2020年4月以降に入学した学生は、これらの体験を十分に積むことが出来なかったことにより自己効力感の向上がないまま、実習に臨む事が推測された。

一方、実習では、看護師のシャドーイングによる代理体験、カンファレンスでの体験の共有、指導者・教員・グループメンバーからの課題達成に対する賞賛、患者からの感謝を受けることによる成功体験など、学内とは異なった代理経験、遂行行動の達成、言語的説得を得る貴重な機会となる。

実習における自己効力感の先行研究では、稲山ら（2018）は、学生は実習を通して、成功体

験を含めた様々な経験を積み重ねることで自己効力感を高める動機づけができる。学生の看護実践能力に関するスキルアップには、自己効力感の維持向上は不可欠であると述べており、石川ら（2016）は、実習を効果的に行うためには、学生のやる気に働きかけ、自信を持たせ、「できる」という感覚を持たせることが必要であると述べている。

達成動機に関する先行研究では、達成動機は看護技術習得に影響を及ぼす要因のひとつとして挙げられており（松永・内海，1999）、実習ではじめて看護援助に臨む学生にとって必要不可欠な要素といえる。達成動機は、Murray（1938/1961）によって生み出された概念であり、価値のある目標を何としてでもやり遂げたいという意欲を満たすために、自分自身の行動を引き起こすきっかけとなる気持ちのことである。自己充實的達成動機は、他者からの評価にとらわれず、自分なりの達成基準への到達を目指そうとする意欲であり、競争的達成動機は、人に比べて負けたくない、価値ある称賛や報酬を得たいという意欲を指す。これらの動機は、生存に不可欠な生理的欲求動機と社会生活を営む上で必要な社会的欲求動機に分類され、社会的欲求動機は、遊戯動機、社会的動機、変化動機、顕示動機、屈辱回避動機に分類される。

実習での経験は、学生自身が計画した援助を実践し、患者からの反応を受けることにより、「目標を持っていたい」「何をしようかと考えるのが楽しい」「最善を尽くしたい」「人より上手くやりたい」といった遊戯動機、変化動機、顕示動機の変化に影響を与えることが推測される。その一方、学内演習をリモート中心の学習となった学生達は、体験したことのない援助を実施することになることから、「失敗したくない」「教員や指導者に注意されたくない」「グループメンバーに軽蔑されるかもしれない」などの思

いを持つことが予測され、屈辱回避動機が強く示されると考えられた。

そこで、実習開始前、学生が自分自身への信頼感や実習に向けた達成動機がどのような状態であるのか、実習終了後はどのように変化したのかについて、客観的に把握したいと考えた。

## Ⅱ. 実習までの準備状況

### 1. 2020年度の授業状況

コロナ禍の厳しい入構制限下で、前期授業に配当されている「看護学概論」「看護援助論」「生活援助技術」は全てリモートでの実施となった。後期授業は、従来4コマで行っていたベッドメイキングおよび血圧測定を、1コマのみ対面授業とし、その他の技術はリモートによる同時双方向型授業によるデモンストレーション見学、視聴覚教材を用いてのイメージ学習と自宅で体験可能な対物的な範囲での体験及び練習となった。

### 2. 2020年入学生の基礎看護学実習Ⅰの概要

本実習は1年次後期（3月）に開講されており、1単位45時間の必須科目である。看護学生としての初めての実習である。実習概要、到達目標及び実習内容は表1の通りである。1グループあたりの学生数は5名を原則とし、グループに1名ずつ教員を配置し、指導に当たっている。

#### 1) 実習前準備

実習開始2週間前、実習グループメンバーとの顔合わせと衛生学的手洗いを実施し、実習開始1週間前には、実習目的、実習方法の説明を行った。コロナ禍の対面時間制限により、グループ内のチームワーク作り、個人面接等による実習担当教員との関係構築など、本来、段階を追って進められる内容の実施は出来なかった。

#### 2) 実習環境の調整

実習施設との打ち合わせでは、病院で実施さ

れている新型コロナ感染予防対策の現状を共有した上で、混雑した通学時間を避ける、昼食時間を分散するなど、安全に実習が行えるよう実習時間の変更を行った。実習指導担当スタッフと学生の学修経過を共有し、実習目標に到達させるためのサポート方法を検討し、以下の内容を確認した。

①看護師のシャドーイングの機会を経て、患者を一人受持ち、ケアを実施する。

②ケアの実施は、事前に学生が立案した援助計画を学生、教員、指導に当たる病棟スタッフの3者で共有し、学生へのサポートのための役割を教員、病棟スタッフで分担する。

③学内演習で技術の体験ができていないため、十分なサポート体制の下で、多くの実体験ができるように調整を行う。

## Ⅲ. 目的

本調査の目的は、基礎看護学実習Ⅰ前・後の自己効力感と達成動機を調査し、実習前後の変化を明らかにすることである。

## Ⅳ. 方法

### 1. 対象

対象はA大学看護学部1年生、基礎看護学実習Ⅰの履修学生89名

### 2. 調査時期

調査期間は、2021年2月24日～3月20日

### 3. 測定用具

#### 1) 自己効力感

質問紙は、成田（1995）、森（2004）により有効性が認められた特性的自己効力感尺度（23項目）を使用した。特性的自己効力感尺度は「肯定的項目（以下P-SE）」9項目と「否定的項目（以下N-SE）」14項目で構成されており、質問項目は表2の通りである。各質問項目に対し、そう思う（5点）からそう思わない（1点）の

表1. A 大学 基礎看護学実習Ⅰの概要

## I. 実習目的

病院で行われている看護の実践活動に参加し、日常生活援助の実際を看護師とともに体験することにより、看護の目的、看護の対象、看護の場におけるコミュニケーション、看護の役割と機能を理解する。病院の組織、機能、看護部の機能を概観し、医療チームメンバーとしての看護の役割を学ぶ。実習での体験を通し、看護を学ぶために必要な基本的態度や姿勢を身につけ、看護専門職としての責任を考え看護学生としての今後の学習課題を明確にする。

## II. 実習目標

1. 病院および看護部の組織と機能、役割を概観し、病院の特徴と設備、構造、院内環境について説明できる。
2. 入院環境がもたらした患者の生活行動の変化について述べることができる。
3. 医療チームメンバーの一員としての看護者の役割について列挙できる。
4. 看護の対象と円滑な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法に関心を持ち行動することができる。
5. 受け持ち患者に必要な日常生活援助の一部を指導者とともに実施し、自己の行動、実施した援助の意味を論理的に述べることができる。
6. 看護学生として誠実で責任ある行動をとることができる。
7. 実習を通して自己の課題を明確にし、具体的に述べることができる。

## III. 実習内容

日程	実習内容
1～2 日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院・病棟オリエンテーション</li> <li>・看護の実際を見学する（シャドーイング）</li> <li>・受け持ち患者の決定</li> <li>・受け持ち患者とのコミュニケーション</li> <li>・受け持ち患者の担当看護師とともに患者の援助に参加</li> </ul>
3～4 日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち患者の日常生活援助の一部を計画し、看護師と共に援助に参加する</li> <li>・体験した援助を振り返り、必要な援助の方法とその理由を明らかにする</li> <li>・プロセスレコードを用いて、受け持ち患者とのコミュニケーションを振り返る</li> </ul>
4～5 日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終カンファレンスおよび学びの統合</li> <li>・個人面接（振り返りおよび課題の明確化）</li> <li>・記録のまとめ、レポート作成</li> </ul>

表2. 特性的自己効力感尺度

質問紙(調査B)

以下の文章は一般的な考えを示しています。

それぞれについてどのくらいあてはまるか1つ選び、当てはまる数字を選択してください。

5. そう思う      4. まあまあそう思う      3. どちらとも言えない  
2. あまりそう思わない      1. そう思わない

	5	4	3	2	1
1 自分の立てた計画はうまくできる自信がある	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2 しなければならないことがあっても、なかなかとりかからない	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3 初めはうまくいかない仕事でも、できるまでやり続ける	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
4 新しい友達をつくるのが苦手だ	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
5 重要な目標を決めても、めったに成功しない	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
6 何かを終える前にあきらめてしまう	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
7 会いたい人を見かけたら、向こうから来るのを待たないでその人のところへ行く	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
8 困難に出会うのを避ける	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
9 非常にややこしく見えることには、手を出そうと思わない	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
10 友達になりたい人でも、友達になるのが大変ならばすぐに止めてしまう	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
11 面白くないことをする時でも、それが終わるまでがんばる	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
12 何かしようと思ったら、すぐにとりかかる	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
13 新しいことを始めようと決めても、出だしでつまづくとすぐにあきらめてしまう	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
14 最初は友達になる気がしない人でも、すぐにあきらめないで友達になろうとする	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
15 思いがけない問題が起こった時、それをうまく処理できない	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
16 難しいようなことは、新たに学ぼうと思わない	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
17 失敗すると一生懸命やろうと思う	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
18 人の集まりの中では、うまく振る舞えない	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
19 何かしようとする時、自分にそれができるかどうか不安になる	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
20 人に頼らない方だ	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
21 私は自分から友達を作るのがうまい	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
22 すぐにあきらめてしまう	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
23 人生で起こる問題の多くは処理できるとは思えない	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

表3. 達成動機尺度

質問紙(調査A)							
以下の文章を読んだとき、あなたの身持ちに一番近いものを1つ選び、当てはまる数字を選択してください。							
7. 非常に良くあてはまる		6. ほとんどあてはまる		5. 少しあてはまる		4. どちらともいえない	
3. あまりあてはまらない		2. ほとんどあてはまらない		1. 全然あてはまらない			
	7	6	5	4	3	2	1
1 いつも何か目標を持っていたい							
2 ものごとは他の人よりうまくやりたい							
3 決められた仕事の中でも個性をいかしてやりたい							
4 人と競争することより、人と比べることができないようなことをして自分をいかしたい							
5 他人と競争して勝つとうれしい							
6 ちょっとした工夫をすることが好きだ							
7 人に勝つことより、自分なりに一生懸命やるのが大事だと思う							
8 みんなに喜んでもらえる素晴らしいことをしたい							
9 競争相手に負けるのはくやしい							
10 何でも手がけたことは最善をつくしたい							
11 どうしても私は人より優れていたいと思う							
12 何か小さいことでも自分しかできないことをしてみたいと思う							
13 勉強や仕事を努力するのは、他の人に負けたくないためだ							
14 結果は気にしないで何かを一生懸命やってみたい							
15 今の社会では、強いものが出世し、勝ち抜くものだ							
16 いろいろなことを学んで自分を深めたい							
17 就職する会社は、社会で高く評価される場所を選びたい							
18 成功するということは、名誉や地位を得ることだ							
19 今日一日何をしようか考えることは楽しい							
20 社会の高い地位をめざすことは重要だと思う							
21 難しいことでも自分なりに努力してやってみようと思う							
22 世に出て成功したいと強く願っている							
23 こういうことがしたいなあと考ええるとワクワクする							



5 件法で評定を求め、評定値が高いほど、自己効力感が高くなることを示す。

## 2) 達成動機

質問紙は、堀野・森（1991）の達成動機（23 項目）を使用し、「競争的達成動機」10項目と「自己充實的達成動機」13項目で構成されており、質問項目は表3の通りである。各質問項目に対し、そう思う（7点）そう思わない（1点）の7件法で評定を求め、評定が高いほど、達成動機が高くなることを示す。

## 4. 調査方法

調査への参加は、実習オリエンテーション終了後、自由参加の場で調査目的を説明し、調査への参加は自由意思に基づくものであり、Forms の回答をもって参加への同意とすること、データの個人特定はしないこと、調査目的以外には使用しないことを説明した。質問紙と調査説明文は GWE の Google Forms を使用して作成し、調査関係者以外は閲覧ができないよう調査専用の classroom を準備した。classroom に入室するためのクラスコードは、希望者のみに配布し、classroom に入室した対象にのみに調査 Forms を配信した。実習前調査は、実習前日までの一週間、実習後調査は、成績評価確定後に Forms を配信後、1 週間の回答期間を設けた。アンケートの所要時間は10分程度とした。

## 5. 分析方法

平均値の算出は、実習前後の特性的自己効力感、達成動機、および中位項目である P-SE、N-SE、競争的達成動機、自己充實的達成動機の得点と、それぞれの下位項目とした。N-SE の質問は逆転項目になっており、自己効力感が高いほど低い点数になるため、5 点→1 点、4 点→2 点、2 点→4 点、1 点→5 点として改編して分析した。平均値の差の検定は、各データが正規分布を示すか否かを Shapiro-Wilk 検定

で確認し、各データの平均値の差について検定を行った。Shapiro-Wilk 検定で、正規分布している項目は t 検定、一部正規分布が確認できなかった項目は、Wilcoxon 符号付き順位検定で分析した。分析には統計ソフト SPSS 22 for windows を使用した。

## V. 倫理的配慮

調査への参加は、自由意志に基づき、Classroom に入室した場合でも必ず調査に協力する必要はない、実習前に調査に参加した場合でも、実習後に必ずしも参加しなくてもよい等、途中で協力を中止した場合でも不利益が及ぶことがないように配慮し、回収したデータについても要望があれば可能な限り破棄を行うこととした。調査 Forms の配信は、classroom に入室者を対象に、ウィルスソフトをインストールしたパソコンを用いて行い、説明文書・内容を閲覧した上で、参加、不参加を決定することができるよう1週間の回答期間を設け、Forms の回答をもって参加への同意を得たものとした。Classroom は調査関係者以外の教員が閲覧・編集できないようアクセス制限をかけ、個人情報の漏洩に配慮した。質問紙は無記名とするが、実習前後で共に回答しているデータで比較を行うため、メールアドレスを収集し、メールアドレスはサンプル番号を付与した一覧表を作成した。分析はサンプル番号で行い、個人特定が来ないようにした。データは、パスワード付きの USB に保存した上で、鍵のかかる場所に保管した。メールアドレスの保管はスタンドアローンのパソコンで行った。

## VI. 結果

基礎看護学実習 I 履修対象者89名に対し、実習前及び実習後に調査を実施した結果、実習前は75名（回答率84.3%）、実習後は78名（回答

率87.6%)から回答が得られ、回答に不備がなく、実習前・後共に回答していることが確認できた66名(74.2%)を分析対象とした。

## 1. 自己効力感

### 1) 実習前

特性的自己効力感全体の平均値は $66.7 \pm 12.61$ であった。P-SEの平均値は $29.4 \pm 5.03$ 、N-SEの平均値は $39.3 \pm 8.63$ 、各下位項目の平均値及び標準偏差については表4の通りである。

### 2) 実習後

特性的自己効力感全体の平均値は $70.6 \pm 12.60$ であった。P-SEの平均値は $30.3 \pm 5.06$ 、N-SEの平均値は $40.3 \pm 8.85$ 、各下位項目の平均値及び標準偏差については表4の通りである。

### 3) 実習前後の比較(表4)

特性的自己効力感全体の实習前後の平均値の

比較では、実習後に上昇傾向にあった( $p = 0.058$ )。P-SEの平均値は有意差がなかった。P-SEの各下位項目については、有意差はなかったが、「14.最初は友達になる気がしない人でも、すぐにあきらめないで友達になろうとする」で、上昇傾向が認められた( $p = 0.071$ )。N-SEの平均値では、有意差はなかったが上昇傾向が認められた( $p = 0.097$ )。N-SEの各下位項目については、「18.人の集まりでは上手く振る舞えない」で有意に上昇した( $p = 0.005$ )。

## 2. 達成動機

### 1) 実習前

達成動機全体の平均値は $114.3 \pm 17.17$ 、自己充実的達成動機の平均値は $69.8 \pm 10.26$ 、競争的達成動機の平均値は $44.5 \pm 10.10$ 、各下位項目の平均値及び標準偏差については表5の通りであ

表4. 実習前後の特性的自己効力感 平均値の比較

質問項目	実習前 avg±SD	実習後 avg±SD	p値 (* $p < 0.05$ )
1. 自分が立てた計画はうまくできる自信がある	$2.6 \pm 0.86$	$2.8 \pm 0.85$	NS
3. 初めはうまくいかない仕事でも、できるまでやり続ける	$3.8 \pm 0.87$	$3.9 \pm 0.85$	NS
7. 会いたい人を見かけたら、向こうから来るのを待たないでその人のところへ行く	$3.7 \pm 1.29$	$3.8 \pm 0.99$	NS
11. 面白くないことをする時でも、それが終わるまでがんばる	$3.8 \pm 0.85$	$3.7 \pm 0.89$	NS
12. 何かしようと思ったら、すぐにとりかか	$3.0 \pm 1.18$	$3.1 \pm 1.15$	NS
14. 最初は友達になる気がしない人でも、すぐにあきらめないで友達になろうとする	$3.1 \pm 1.18$	$3.3 \pm 1.10$	0.071(傾向あり)
17. 失敗すると一生懸命やろうと思う	$3.6 \pm 1.07$	$3.7 \pm 1.06$	NS
20. 人に頼らない方だ	$3.0 \pm 1.14$	$2.9 \pm 1.21$	NS
21. 私は自分から友達を作るのがうまい	$2.8 \pm 1.32$	$2.9 \pm 1.28$	0.071(傾向あり)
肯定的自己効力感 全体	$29.4 \pm 5.03$	$30.3 \pm 5.06$	0.006*
2. しなければならないことがあっても、なかなかとりかかからない	$2.4 \pm 1.01$	$2.6 \pm 1.14$	NS
4. 新しい友達をつくるのが苦手だ	$2.8 \pm 1.44$	$3.1 \pm 1.37$	NS
5. 重要な目標を決めても、めったに成功しない	$3.0 \pm 1.04$	$3.1 \pm 0.98$	NS
6. 何かを終える前にあきらめてしまう	$3.2 \pm 1.07$	$3.3 \pm 1.06$	NS
8. 困難に出合うのを避ける	$2.5 \pm 1.00$	$2.4 \pm 1.00$	NS
9. 非常にややこしく見えることには、手を出そうとは思わない	$2.5 \pm 0.90$	$2.4 \pm 0.99$	NS
10. 友達になりたい人でも、友達になるのが大変ならばすぐに止めてしまう	$3.0 \pm 1.17$	$3.2 \pm 1.09$	NS
13. 新しいことを始めようと決めても、出だしてつまづくとすぐにあきらめてしまう	$2.9 \pm 1.04$	$3.0 \pm 1.06$	NS
15. 思いがけない問題が起こった時、それをうまく処理できない	$2.6 \pm 0.94$	$2.8 \pm 1.03$	NS
16. 難しそうなことは、新たに学ぼうと思わない	$3.5 \pm 0.95$	$3.3 \pm 0.99$	NS
18. 人の集まりの中では、上手く振る舞えない	$2.8 \pm 1.33$	$3.1 \pm 1.16$	0.005*
19. 何かしようとする時、自分にそれができるかどうか不安になる	$1.9 \pm 0.98$	$1.8 \pm 0.77$	NS
22. すぐにあきらめてしまう	$3.2 \pm 1.14$	$3.1 \pm 1.05$	NS
23. 人生で起こる問題の多くは処理できるとは思えない	$3.2 \pm 1.08$	$3.1 \pm 0.98$	NS
否定的自己効力感 全体	$39.3 \pm 8.63$	$40.3 \pm 8.85$	0.006(傾向あり)
自己効力感 全体	$66.7 \pm 12.61$	$70.6 \pm 12.60$	0.016*



る。

## 2) 実習後

達成動機全体の平均値は $114.9 \pm 18.55$ 、自己充實的達成動機の平均値は $71.1 \pm 10.81$ 、競争的達成動機の平均値は $43.8 \pm 10.54$ 、各下位項目の平均値及び標準偏差については表5の通りである。

## 3) 実習前後の比較 (表5)

達成動機全体の实習前後の平均値の比較では、実習後で若干の上昇はあったが有意差は認められなかった。自己充實的達成動機の実習前後の比較では、有意差はなかった。各下位項目につ

いては、「1. いつも何か目標を持っていたい」( $p = 0.04$ )、「3. 決められた仕事の中でも個性をいかしてやりたい」( $p = 0.04$ )、「6. ちょっとした工夫をすることが好きだ」( $p = 0.03$ )で有意差が認められた。「19. 今日一日、何をしようか考えることは楽しい」( $p = 0.08$ )で上昇傾向が、「10. 何でも手がけたことは最善を尽くしたい」( $p = 0.08$ )は低下傾向を示した。競争的達成動機の実習前後の比較では、実習後に下降していたが有意差はなかった。各下位項目については、「2. ものごとは他の人よりうまくやりたい」で有意差が認められた ( $p = 0.026$ )。

表5. 実習前後の達成動機 平均値の比較

質問項目	実習前 avg±SD	実習後 avg±SD	p値
1. いつも何か目標を持っていたい	4.9±1.34	5.4±1.25	0.04*
3. 決められた仕事の中でも個性をいかしてやりたい	4.7±1.52	5.1±1.26	0.04*
4. 人と競争することより、人と比べることができないようなことをして自分をいかしたい	5.0±1.26	5.0±1.28	NS
6. ちょっとした工夫をすることが好きだ	4.8±1.28	5.2±1.25	0.03*
7. 人に勝つことより、自分なりに一生懸命やるのが大事だと思う	5.9±1.16	5.8±1.16	NS
8. みんなに喜んでもらえる素晴らしいことをしたい	5.9±1.45	6.0±1.22	NS
10. 何でも手がけたことは最善をつくしたい	6.2±0.93	5.8±1.17	0.08 (傾向あり)
12. 何か小さいことでも自分しかできないことをしてみたいと思う	5.4±1.21	5.2±1.32	NS
14. 結果は気にしないで何かを一生懸命やってみたい	5.4±1.43	5.5±1.30	NS
16. いろいろなことを学んで自分を深めたい	5.8±1.15	5.8±1.14	NS
19. 今日一日何をしようか考えることは楽しい	4.9±1.78	5.3±1.48	0.08 (傾向あり)
21. 難しいことでも自分なりに努力してやってみようと思う	5.4±1.03	5.4±1.02	NS
23. こういうことがしたいなあと思えるとわくわくする	5.4±1.41	5.5±1.17	NS
自己充實的達成動機 全体	69.8±10.26	71.1±10.81	NS
2. ものごとは他の人よりうまくやりたい	5.8±1.27	5.5±1.08	0.026*
5. 他人と競争して勝つとうれしい	5.2±1.62	5.0±1.53	NS
9. 競争相手に負けるのはくやしい	5.3±1.08	5.1±1.69	NS
11. どうしても私は人より優れていたいと思う	4.2±1.58	4.3±1.63	NS
13. 勉強や仕事を努力するのは、他の人に負けないためだ	3.2±1.52	3.1±1.53	NS
15. 今の社会では、強いものが出世し、勝ち抜くものだ	4.4±1.72	4.2±1.60	NS
17. 就職する会社は、社会で高く評価されることを選びたい	4.3±1.38	4.3±1.48	NS
18. 成功するということは、名誉や地位を得ることだ	3.5±1.56	3.6±1.51	NS
20. 社会の高い地位をめざすことは重要だと思う	4.4±1.56	4.3±1.45	NS
22. 世に出て成功したいと強く願っている	4.2±1.68	4.2±1.71	NS
競争的達成動機 全体	44.5±10.10	43.8±10.54	NS
達成動機 全体	114.3±17.17	114.9±18.55	NS

## VII. 考察

Bandura (1979) の「社会学的学習理論 (= モデリング学習他)」によれば、人間の成長には優れた他者を模倣することが重要であること、自己効力感(自己効力感)は優越感や劣等感という感覚とも関係し、自己効力感が高まるにつれ、自分の能力に対する信頼感が行動に繋がることを明らかにしている。強い恐怖感を克服した人間は自分自身を肯定的に捉えるようになり、自己効力感が高い人ほど、困難な状況にあっても打破するために行動できると述べている。これは、実習に至るまでの学内学修において、特に技術演習において、デモンストレーション、患者・看護師体験、技術練習や技術チェック等の体験の積み重ねによって育まれる能力ともいえる。対面による技術体験の機会が極端に少なかったことは、良きモデルから学ぶこと、友人と切磋琢磨すること、自己を試すこともできなかった。そのため、自分の能力と向き合うことができず、課題も不明確なまま、臨地実習という大きな課題に向かうことになり、漠然とした不安を抱えて臨んだ実習であったのではないかと考えられた。

今回の調査では、実習前の特性的自己効力感全体の平均値『66.7』は、成田ら(1995)の我が国における一般女性の平均得点『75.31』より低い結果であった。「芸術活動の経験が特性的自己効力感の形成におよぼす影響」宇恵(2018)では、芸術活動未経験の一般的な女子大学生の平均得点『65.73』との比較では若干高い結果である。この比較だけでは評価することはできないが、実習前に「自己に対する自信」を持っている学生が少ないことが考えられた。達成動機は、先行研究(岡田ら, 2011)における実習前の自己充實的達成動機の平均値『71.25』に比べ、本研究では『69.8』と低く、実習前の動機づけが不足していたと考えられる。同様に競争的達成動機の平均値『44.33』に比

べ『44.5』と高い結果であり、大学入学までの競争下での学習姿勢の影響があるのではないかと考えられた。しかしながら、これらについては、通常授業を実施した学生との比較が出来ていないので、今回のコロナ禍における授業体制の影響かどうかは不明である。

自己効力感に影響を与える要因には、「遂行行動の達成」「言語的説得」「代理的経験(モデリング)」「生理的・情動的状態」がある(Bandura, 1979)。本研究で、特性的自己効力感全体の比較において、実習後に上昇傾向が認められた理由として、これら4要因が影響していると推察された。

今回の状況下に置いて実習方法を見学実習のみで終わらせることなく、受け持ち患者に対する看護援助の体験を積極的にサポートしたことが「遂行行動の達成」に影響したのではないかと考えられる。学内での技術経験不足によって自信がない状態であったとしても、臨地実習で教員や臨床指導者のサポートを受けながら、未熟なりに準備をして勇気をもって看護援助を実施し、達成経験を獲得することは、自己効力感を高める要因として重要である。実習では、教員や臨床指導者の肯定的な発言が学生達の自己効力感を高めることに繋がるからである。

「言語的説得」は、他者の評価によって学生自身の認知が形成されるため、他者の言葉に影響されて自己効力感を下げてしまう一方、自分の能力やスキルを他者から言葉で認められ、肯定的な言葉を受け止めることにより、自己効力感につながっていく。今回、実習前の実習病棟との打ち合わせでは、通常の学習ができていないことを臨床側と共有し、実習の到達目標を達成するために、学生の実施内容に対してどこまでサポートするかについて話し合い、その都度確認・調整しながら指導に当たった。「できていないこと」を指摘することよりも、先ず「出

来たこと」を承認し、フィードバックしたことが「言語的説得」につながり、自己効力感を高める要因に影響したと考えられる。リモート授業中心での技術学修の学生達にとって、実習での看護実践場面の見学や他学生の成功体験を目にする機会は大変貴重なものになったであろう。

代理的経験は「類似性：能力が近いはずのメンバーが上手く出来たのなら、自分もできるという思考」と「優位性：メンバーのAさんよりも自分なら結果を残せるはず」の2種類に分けられる。グループメンバーが実習で体験した出来事や成功したプロセスを共有し、学生自身の内面に取り込む作業をサポートすることで、自己効力感を上昇させることが出来る。実習時間の短縮によって看護援助が実施できる時間に制限がある中で、貴重な技術経験のチャンスを複数の学生で協同させる、先に経験した学生に指導者となって技術指導をしてもらうなどの工夫を行い、日々のカンファレンスで個々が経験したことを共有したことで、自己効力感を高めることにつながったのではないかと考える。

生理的・情動的状态は、生理的な感情は些細な出来事で変化するため、緊張をとることが重要である。通常の対面授業を行えなかった学生達にとって、初めての臨地実習であり、初めて患者と接する体験をする実習では、より周到な準備が必要な状況であったと言える。

初学者の技術演習は、技術を覚えるだけでなく、看護師-患者役の体験を通して、自分以外の人との交わり、相手の立場を考える、仲間作りをする、模倣するためのデモの見方や自分中に取り込む方法を学ぶという目標がある。「18. 人の集まりの中では、上手く振る舞えない」が有意に上昇し、「14. 最初は友達になる気がしない人でも、すぐにあきらめなくて、友達になろうとする」は、上昇傾向であった。特性的自己効力感の下位項目である「18. 人の集まりの

中では、上手く振る舞えない」は有意に上昇しているのは、逆転項目として分析しているため、「上手く振る舞える」ようになったという意味を示している。リモート授業により、学生同士の関わりの経験が出来なかった学生が、実習を経験することで、「すぐにあきらめなくて、友達になろうとする」という自信ができ、「人の集まりの中では、上手く振る舞う」ことに不安を抱えていた学生が体験により、自信が出来たと考えられる。

実習では、グループメンバーとの情報交換、指導者・教員からの指導内容の共有など、協同しなければ乗り越えられない。今回の結果から、学内演習を体験できていない学生であっても、実習体験により、自己効力感が高まることが確認できたことで、自分への自信、看護学生としてのアイデンティティの確立に寄与することが明らかになった。

人は評価を伴う状況において、自己の力で目標を達成しようとする欲求があり、この欲求により、行動が促され決定され、生存に不可欠な生理的欲求を一次的欲求、社会生活を営む上で必要な社会的動機を二次的欲求（心理発生的欲求）として分類した。さらに、社会的動機を遊戯動機、変化動機、顕示動機、屈辱回避動機などに分類した（Murray, 1938/1961）。今回の調査では、自己充實的達成動機の下位項目の「1. いつも何か目標を持っていたい」「6. ちょっとした工夫をすることが好きだ」の上昇が認められた。リモート授業が中心だった学生達は、今回初めて「人」に対してケアを行った。また、実施した受け持ち患者へのケアは、自らが計画したものである。この体験が、知識や視聴覚教材で学習した援助方法をそのまま適用させるのではなく、患者一人ひとりに沿った方法を工夫する必要性とその効果を実感し、ケアを行うためには目標が必要なこと、看護師を目指す

すための自己の目標設定が必要であることを感じることが出来たと推測された。

また、「19. 今日一日何をしようかと考えるのが楽しい」の上昇は、遊戯動機に関連しており、リモート学習の中で、臨場感がもてずにいた学生達が、初めての実習で実施したケアの患者からの様々な反応により、創意工夫の楽しさ、明日はどんなケアをしようかなど、考える事の楽しさを実感した結果であると言えるだろう。

屈辱回避動機に関連する「10. 何でも手がけたことは最善を尽くしたい」の低下傾向は、実習前準備が不十分で技術や人間関係への不安を持ちながら実習に参加した学生達が、最善を尽くした結果、失敗したくない、失敗したら評価に関わる、グループメンバーに軽蔑されたくないという防衛心理が反映したものと考えられる。山田ら（2011）の調査によれば、7割以上の大学生が劣等感を認知していること、達成動機と劣等感の関係には有意な関係があり、劣等感達成動機を高めるパネの役割を持つことが想定されると述べている。中島（1999）は、心理的安定を求め逃避行動を生むことで劣等感克服への動機付けにもなると述べている。失敗したくないという逃避行動や防衛心理が、今後の学習において、動機付けに向かうことが期待される。

顕示動機に関連する競争的達成動機の「2. ものごとは他人より上手くやりたい」の有意な低下と、自己充實的達成動機の「3. 決められた仕事の中でも個性を活かしたい」の有意な上昇は、看護はグループメンバーとの競争ではなく、「患者 - 看護師」関係の中で患者の個性を尊重したより良い方法を考え選択すること、自分の個性を隠すことなく、患者とありのままに対峙することの大切さを感じた結果ではないかと推測される。諏訪（2007）は、学力向上、学業成績中心主義の教育が、偏差値の高低や「勝

ち組」か「負け組」といった一元的な尺度でしかものごとを考えることができなくなったと述べている。高校を卒業したばかりの学生達は、学力や成績を他者と比較することで達成感を感じ、他者よりも良い成績を取ることが「勝ち組」であり、学習の動機になる傾向にある。リモート授業中心の学習は、対面式の講義、演習と比較し、ケア技術の熟達やコミュニケーション能力を向上させることが難しい。人との接触を避けなければならない状況下においては、知識中心の授業となり、学習の成績評価は筆記試験に頼らざるを得なかった。実習で初めて患者と関わり、自分で考えたケアを実施したことにより、他人より抜き出すこと、他人より上手くやりたい気持ちをもつことよりも、自分の出来ることと出来ない事を明確にし、看護学生として出来ることを工夫しながら患者に提供することが重要であると認知し、看護は他人と比べたり、競ったりするものではないことに気が付いた結果ではないかと考えられる。

## VIII. 結論

A 大学1年生の基礎看護学実習I前後の特性的自己効力感および達成動機について調査し、実習前後の変化について分析した結果、以下のことが明らかになった。

1. 特性的自己効力感全体では、実習後に上昇傾向が認められ、自己効力感が高まった傾向があることが確認された。
2. N-SEの下位項目「18. 人の集まりの中では、上手く振る舞えない」については、有意な上昇が認められ、逆転項目のため、「上手く振る舞える」と認識された。
3. 達成動機全体では、有意差が認められなかった。
4. 自己充實的達成動機の下位項目「1. いつも何か目標を持っていたい」「3. 決めら



れた仕事の中でも個性をいかしてやりたい」「6. ちょっとした工夫をすることが好き」については、実習後に有意な上昇が認められた。

5. 競争的達成動機の下位項目「2. ものごとは他の人よりうまくやりたい」で、有意な低下が認められた。

## Ⅸ. 本研究の限界と課題

今回は、尺度を使用した調査のみであり、学生の背景や成績などのデータ収集は行わなかった。しかしながら、様々な影響因子との関係性を明らかにすることにより、継続教育への反映の可能性が広がるのではないかと考えられたので、今後検討していきたい。また、リモート授業の影響を明らかにするためには、今後、通常の学習形態で学んだ学生との比較も必要である。

## 文献

Bandura.A. / 野広太郎 (1979) : 社会的学習理論 - 人間理解と教育の基礎 -, 東京, 金子書房, 126-278.

堀野 緑 : (1987) : 達成動機の構成因子の分析 - 達成動機 の概念の再検討 -, 教育心理学研究, 35, 148-154.

堀野 緑, 森 和代 (1991) : 抑うつとソーシャルサポートとの関連に介在する達成動機 の要因, 教育心理学研究, 39, 308-315.

池田謙一, 唐沢穰, 工藤恵理子他 (2010) : 社会心理学 (New Liberal Arts Selection), 有斐閣.

稲山明美, 伊東美佐江, 松本啓子他 (2018) : 看護学生の効果的な臨地実習へ向けた自己効力感に関する検討, 川崎医療福祉学雑誌, 8 (1), 37-46.

石川恵子, 内海桃絵 (2016) : 看護学生における臨地実習へのモチベーション, 京都大学

大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要, 11, 11-16.

松永保子, 遠藤恵子, 井上京子 (1999) : 看護学生の自己効力感 (Self-Efficacy) に関する研究 (第2報) - 看護学生の背景と自己効力感との関係 -, 山形保健医療研究, 2, 15-21.

松永保子, 内海 滉 (1999) : 看護学生の達成動機と基礎看護技術習得との関連, 山形保健医療研究, 2, 65-71.

森 陽子 (2004) : 大学生の自己効力感と英語学習方略の関係, 日本教育工学会論文誌, 28, 45-48.

Murray, H.A. (1938) / 外林大作訳 (1961) : Explorations in Personality, Oxford University Press, パーソナリティ, 誠信書房.

Murray, H.A. (2000) / 村井健祐, 土屋明夫, 田之上厚三編著 : 社会心理学へのアプローチ, 北樹出版

中島義明 (1999) : 心理学事典, 有斐閣.

成田健一, 下仲順子, 中里克治他 (1995) : 特性的自己効力感尺度の検討 - 生涯発達の利用の可能性を探る -, 教育心理学研究, 43 (3), 306-314

岡田初恵, 榎本朋子 (2011) : 基礎看護学実習Ⅱにおける実習過程に伴う看護学生の思い - 達成動機が高まった学生を対象とした調査から -, 川崎医療短期大学紀要, 31, 7-13.

坂野雄二, 東條光彦 (1993) : セルフ・エフェカシー尺度, 心理アセスメントハンドブック, 西村書店, 218-234.

諏訪哲二 (2007) : 何故勉強させるのか? 教育再生を根本から考える : 光文社, 201-254.

玉木敦子 (2017) : 今どきの看護学生をどう育てるか, 神戸女子大学看護学部紀要, 2,

1-10

宇恵 弘 (2018) : 芸術活動の経験が特性的自己効力感の形成に及ぼす影響, 総合福祉科学研究, 9, 31-37.

山田真行, 水野基樹 (2011) : 大学生における達成度浮き世劣等感の関連, 順天堂健康スポーツ科学研究, 2 (4), 150-154.